

■ 2012年8月29日 お知らせ

伊豆利島^{としま}を訪ねる旅ご案内

行事担当理事 鈴木興治



島の8割がツバキという「椿の島」伊豆利島を訪ねる旅を企画しました。椿油生産最盛期の様子を見学し、島の椿愛好会の皆さんと交流を図ります。あわせて大型客船の船旅もお楽しみ下さい。

■開催日 2012年11月9日(金)～11日(日)

(9日22時、東京・竹芝桟橋出航、船中泊) ■募集人員 15～20人

■費用 3万円(集合時支払い)

■申し込み締め切り 10月15日(月)

■お問い合わせ・申し込み先

日本ツバキ協会 電話03-5805-5222

■注意事項

- (1) 出航前に台風などで海が荒れると予想される場合は中止します。
- (2) 出航後海が荒れて利島港に接岸できない場合は大島からヘリコプターの利用となり、1人1万円の費用増となることを予めご了承下さい。

■スケジュール

- ◇ 11月9日(金) 21:00 竹芝栈橋待合所集合 22:00 出航
- ◇ 10日(土) 6:30 利島港着
7:30 朝食
9:00～ 島内見物
13:00～ 椿の実拾い体験
15:00～ 交流会
18:00～ 夕食(民宿に分宿します)
- ◇ 11日(日) 7:30～ 朝食 島内見物
11:30～ 利島出航



椿畑の島を訪ねて

このところ椿油への関心が高まっている。利島椿研究会の招きで7月6日から利島行きが実現した。箱田会長、小門副会長と高橋理事、村内理事、私と研究会のメンバーでもある牧野洋二さんの6名である。

一等船室は12畳くらいの広さに9名分の寝具がある部屋で、貸し切り状態に恵まれた。しかし、乗船券には〈条件付き〉の文字が印されていた。波が高くて利島に接岸できない場合があるというのだ。その心配は現実のものとなり利島を横目に見ながら新島まで連れて行かれるはめになった。

牧野さんが手配して下さった漁船で、大島から加わった尾川武雄さんを含め7名で荒波の中を利島に引き

返した。ベテラン船長の巧みな操縦で思ったよりきつくはなかったが、長い長い 40 分だった。

約 3 時間遅れで利島に着き、研究会のメンバーに迎えられて民宿「かおり荘」で朝食をとり、早速島を案内していただいた。利島は標高 508 m の宮塚山という古い火山でできた周囲 8 km の小さな島である。人口は 300 人程で、集落は南からの強風を避けて北側の中腹にかたまっている。椿油は島の主産業だが、専業とはなっていないようだ。漁業や、釣り客などを受け入れる観光などで成り立っている。

用意していただいたクルマに分乗して島を回ったが、行く先々椿、椿である。それも段々畑だ。実を採るためだから園芸品種は一切なく、種子を沢山つける椿が選抜されている。数年前台風で倒れた「神代椿」は 1 本で種子約 60 ㌦、180 ㌦の油が採れたという。収穫した種子は製油センターで加工される。職員の清水さんが丁寧な説明で見せてくれた。純度の高い油の加工法や絞るかすの利用などに「椿油の島」を改めて認識した。

そのあと、研究会のメンバーが種子の多い椿苗を育てているハウスを見せていただいた。5 年苗を畑に補植しているという。ハウスの中で意見交換のひとつときをもった。7 月 7 日、七夕の日。この日が会結成 7 周年の記念日で、これを機会に支部としてツバキ協会に加入して下さることになった。夕食は研究会メンバーに清水さんら J A 職員も交えて和気藹々で行われ、研究会差し入れの名物伊勢えびを賞味させてもらった。

翌日曜日、島の皆さんの見送りを受け、次第に遠くなる利島の全景が美しく印象に残った。